

—未来をひらく—

# 竜爪山 九条の会

りゅうそうざん  
きゅうじょうのかい

会報 2018年5月発行 通巻37号

発行/竜爪山九条の会・事務局

〒420-0812 静岡市葵区古庄3-19-34 五井卓夫

TEL・FAX 054-264-4918

E-mail ryusouzan9@gmail.com

URL <http://ryusou9.jimdo.com>

## シビリアンコントロール

五井 卓 (古庄)

厚生労働省のデータ捏造、財務省の森友学園及び加計学園関連公文書改ざん、文部科学省の教育現場への介入、そして防衛省のイラク日報隠蔽。

もはや安倍政権は統治能力が欠如していることは疑う余地がないことが明らかになりました。「健全な民主主義の根幹を支える国民共有の知的資源」(公文書管理法)である公文書を改ざん・隠ぺいすることは民主主義の基盤を形骸化する事に他なりません。

ことに、南スーダンPKO派兵及びイラク派兵の日報の隠ぺい、「日米の動的防衛協力について」という文章の改ざんなど、制服組が防衛大臣にも隠していたことはシビリアンコントロールが全く機能していないことが明白になりました。言うまでもなくシビリアンコントロールとは職業軍人でない文民(陸、海、空の三軍の最高司令官は総理大臣、文官の最高は防衛大臣)が、軍隊に対して最高の指揮権を持つことです。第二次世界大戦の反省から軍部の政治への介入を抑制し、民主政治を守るための原則として世界の民主主義国家では当たり前のように採用されている制度です。

シビリアンコントロールが機能する基本的原則は、正確な情報を自衛隊が防衛大臣に伝え、それに基づき大臣が自衛隊に指示を出すことです。自衛隊が出す情報が隠ぺい・改ざんされていたのでは正しい指示を防衛大臣が出すことができません。まさに今回の事件はシビリアンコントロールが崩壊したことを示しています。それでなくても、安倍政権は2015年10月、防衛省の内局官僚(背広組)が自



衛官（制服組）より優位としてきた規定を改め、両者を対等とすることを柱とする改正防衛省設置法を成立させました。戦前に軍部が暴走した反省から定められた背広組優位の規定が撤廃されたことで、安全保障政策に関する意思決定の際、専門家である制服組の発言権が拡大することとなりました。

そして今回の幹部自衛隊員による「おまえは国民の敵だ」と国会議員に浴びせられた暴言。5・15事件を起こした青年将校らの檄文にも「国民の敵」と記されていました。「憲政の神様」と呼ばれた犬養首相を殺害。犬養内閣は戦前最後の政党内閣となり、以後、日本は軍部独裁の戦争の道を歩んだのです。

もしも、自民党改憲案にあるような9条に第3項として自衛隊を明記するようなことになったら、どの様なことになってしまうのでしょうか。9条2項が死文化するばかりではなく現憲法の基本原則である、平和主義・国民主権・基本的人権の尊重、すべてが危機に陥ってしまう危険性があります。

東京では国会議事堂を取り巻くような大きな集会が開催されています。私たち静岡でも憲法改悪反対、「安倍政治NO!」の運動を繰り広げていきましょう。

## 「竜爪山九条の会 発会11周年のつどい」の報告

宮 秀雄（古庄）

2月24日（土曜日）、瀬名公民館にて「竜爪山九条の会 発会11周年のつどい」が行われた。午後1時半、開会。2時まで総会が開かれ、五井世話人代表の挨拶の後、北野世話人代表より『9条を取り巻く情勢と会のこの一年』と題する報告があった。

そして、午後2



2月24日（土）、参加者130人、会場に入りきれない人もあった瀬名公民館での「竜爪山九条の会 11周年のつどい」記念講演の様子

時より記念講演が始まった。演題は『安倍改憲とマスメディアの責任』。講師は東京新聞社会部の望月衣塑子記者。以下、官房長官記者会見で注目され現在話題の望月記者の1時間30分の講演の感想である。

細身の小さな体躯の一体どこにそのエネルギーがあるのか、と不思議に思うほどの力強いマシンガントークに度肝を抜かれた。

A4で15ページ分のレジュメと彼女の署名記事として中日新聞に昨年掲載された「ニュースを問う：針路なき武器輸出」1～5ページが配られた。

大手メディアの記者は日本独特の「記者クラブ制度」と「番記者制度」によって守られ、なあなあ、まあまあ、権力者との阿吽の呼吸と権力への忖度の空気、雰囲気になんか安住してしまい鋭い質問をしない。権力を監視し、追及するという視点、態度を失ってしまっている記者が多い中で「東京新聞」という地方紙のハンデを持ちながらも鋭い質問を何度も官邸記者会見で続けている話題の記者である。

なぜ厳しい質問が記者から出ないのか？

一部のメディアはどこを向いているのか？

メディアは権力とどう向き合うべきか？

講演のテーマ、取材した事件、内容は多岐にわたるのでその全てを紹介することはできないがそれらの骨子だけを記す。

冒頭で、彼女の記者としての私のテーマとして、「**権力側が隠そうとすることを明るみに出すこと！**」を強調した。

取材で感じていることとして、記者会見の発表は当局に都合の良い事しか表には出さない。不都合な真実は隠す。だから私はキーマンを見つけ何度でも聞く。彼らが記者に嘘をつくのは当たり前。だからと言って関係者のすべてが納得しているわけではない。だから粘り強く取材しているうちに嘘と真実の見分けがつかようになる、と。

加えて「そもそもメディアの役割とは権力の監視、チェックである。しかし日本の報道の自由度ランキングは世界で72位だ。だから我々記者は委縮してはいられない。所属している会社がどうか、ではなくジャーナリストとしての信念を強く持ちたい。」と強調した。

望月記者が強く問題意識、関心を抱いているのは「武器輸出と軍産官学複合体」である。その取材の成果として本を2冊※刊行した。

戦後歴代の保守政権は「武器禁輸3原則」をうたってきたが、安倍政権はそれを解禁し財界、自衛隊と結託して武器輸出の拡大に前のめりである。彼女はそのことに危機感を持ち精力的に取材を続けている。

※『武器輸出と日本企業』角川新書／『武器輸出大国ニッポンでいいのか』（共著）あけび書房

最後に「東京新聞をよろしく！」と締めくくった。地方紙として制約を持ちながらも頑張っている望月記者と東京新聞にエールを送りたい。私たち一般市民の「メディアリテラシー」が問われていることを改めて痛感した。

※メディア・リテラシーとは、世の中にある数え切れないほどの沢山の情報メディアを主体的に読み解いて必要な情報を引き出し、その真偽を見抜き、活用する能力のこと。「情報を評価・識別する能力」とも言え、カナダ・イギリスおよびオーストラリアでは、カリキュラムに取り入れるよう国の政府が指定している。(出典 ウィキペディア)

※望月衣塑子さんの著書『新聞記者』角川新書

## 望月衣塑子さんってこんな方

富田 家一郎 (瀬名)

望月さんは、講演の中で、東京新聞記者としてスタートした時、東京新聞というマイナーなメディアの記者が取材のとき相手にされるだろうか？と、心配し、大手メディアに対し劣等感に近いものを持っていたそうです。ところがある方から、記者さんに“真剣さ・熱意”を感じたらそんなことは関係ないですよ、と言われたそうです。この言葉を得て、記者として大きな自信を持ち励まされた、とのことでした。

真剣さと熱意が人の心を動かす。何事にも通じることですが、今取り組んでいる安倍改憲NO！3000万署名運動のエネルギーの源ですね。



望月衣塑子記者のマシンガントーク炸裂！

### 戯れ言葉

望月衣塑子さん 一女当千 がびったりの働くママさん。  
男性優位のメディアの世界 孤女奮闘  
取材や、会場で鋭い追及 女突猛進  
講演や、著作に現れるのは 才色兼女  
素顔は、エネルギーシユな 眉目秀女

風流九条人

# 泥沼化した安倍官邸主導

片野 修治（瀬名）

## ◆官邸主導に至るまで

民主主義社会では選挙で選ばれた議員が政策を実行するため、官僚の協力を求めるのが、あるべき姿かもしれないが、従来はエキスパートである官僚が人事をリードし、政治が追認するのが慣例となっていた。そのため、省あって内閣なし、官僚内閣制などと言われ、族議員の跋扈など弊害が多く、これを打破する試みが橋本内閣から始まっていた。

- ・橋本内閣による中央省庁再編
- ・小泉内閣の官邸主導による郵政民営化と構造改革
- ・菅内閣は官僚内閣制から国会内閣制を標榜し、英国に学び国家戦略室の設置。
- ・古賀茂明氏ら改革派官僚による内閣人事局の設置提案。
- ・安倍内閣による内閣人事局の創設。

## ◆安倍内閣による官邸主導とは

内閣官房に置かれた内閣人事局で、全省庁の審議官以上の官僚、約600名の人事を一元的に管理する事になった。しかし、首相の独裁とも言えるリーダーシップにより官僚人事を通じ、さまざまな民主主義に反する事柄が目に見えるようになった。森友問題における官僚の背任、公文書の改ざん、籠池夫妻の昨年6月からの異例の長期拘置（裁判所の忖度？）。加計問題における国政の私物化疑惑と官僚の情報秘匿。

## ◆官邸主導と考えられる政策・人事

消費税の用途変更、教育無償化、出国税、企業拠出金、所得税・法人税改革、経済特区、カジノ法案etc.

NHK会長・内閣法制局長・最高裁判事・日銀総裁の人事。

柳瀬首相秘書官が本省にもどり3階級昇進。藤原内閣府地方推進室次長が本省にもどり2階級昇進。谷査恵子昭恵婦人秘書官が在イタリア大使館一等書記官に、ノンキャリアでは異例の昇進（ローマの休日？）

突き落とされた人もいます。

前川前文科次官は天下り問題で退職後、官邸を批判し、出会い系バーσκヤンダル？をリークされ、現在夜間中学講師。

## ◆独裁を想起させるその手法

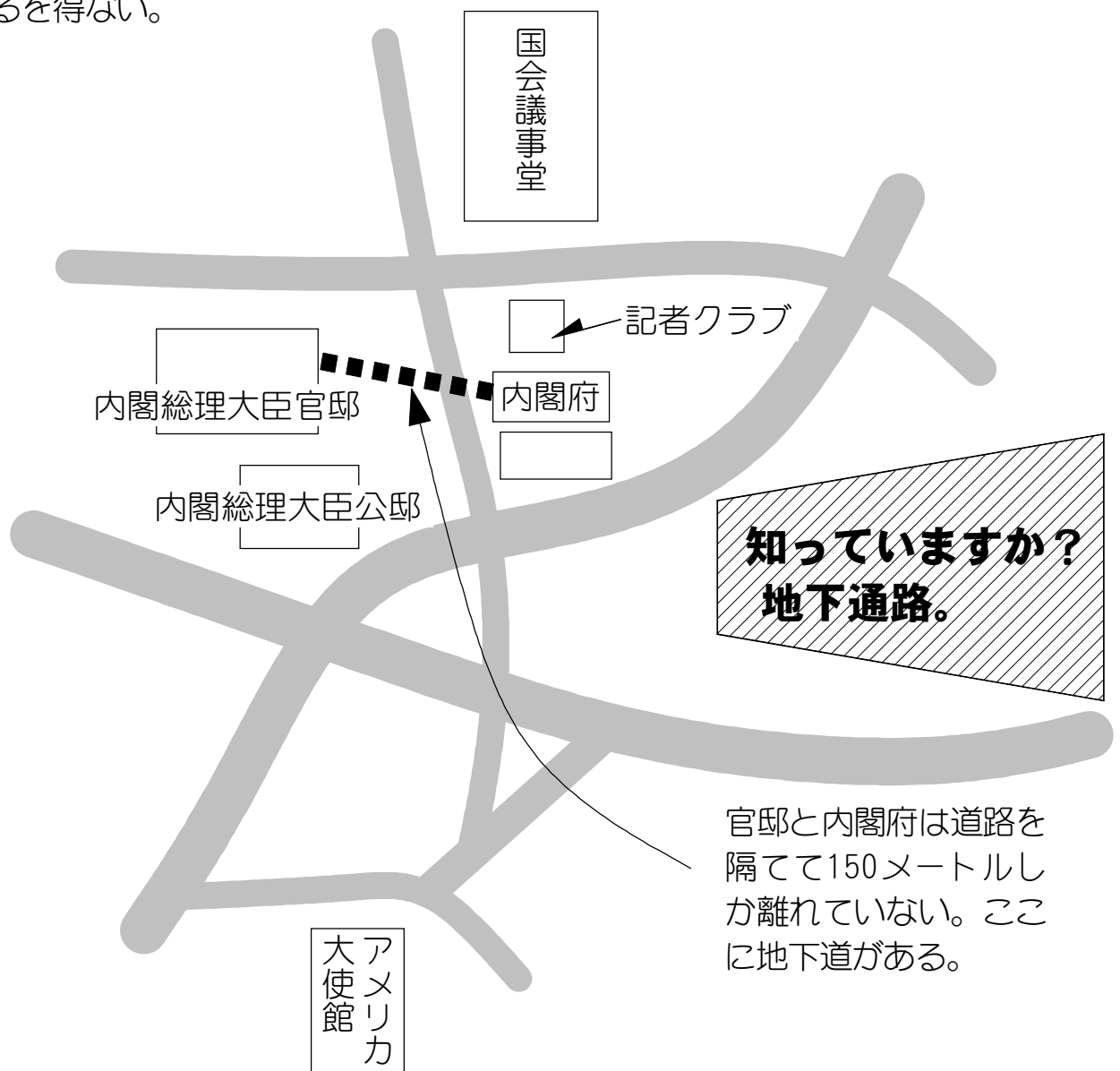
首相の威光を背景とする首相秘書官の行動。首相の意向にかなう者のみ抜

擢。もはや省庁レベルの人員数（1700名）の内閣官房の権限強化。内閣官房の他省庁への影響力の増大。党や省庁の熟議のないままの政策決定は政治主導ではなく官邸主導。官房が企画、内閣府が実行部隊。他省庁が相対的に地盤沈下している。選挙の公認権。

◆おわりに

森友問題に端を発した、安倍内閣の官邸主導は民主主義と相容れない公文書の改ざん、情報の隠ぺい、私的施策疑惑、官僚のモラル崩壊などのさまざまな構造的なゆがみを国民の前に露呈した。

今後、安倍首相の責任が厳しく問われる事になるうが、一方で真の意味での問題解決につながるであろうか。元経済官僚の古賀茂明氏によれば、現在噴出している問題の解決には、公文書管理法・情報公開法・特定秘密保護法の抜本的改正、メディアの機能強化などが必要との指摘である。しかし、長期政権を続けている自民党がこれに応ずるであろうか。筆者は安倍一強政権を選択し続けている有権者が、知らずに民主主義の危機を招いていると考えざるを得ない。



# ビックリと親近感！！ 浜松まつり見物記

静岡 一市民

5月5、6日のゴールデンウィークに、妻と横浜の息子と浜松へ一泊旅行した。近場で、龍ヶ岩洞などの名所、名物の餃子と、浜松にした。直前、テレビでは浜松まつりの紹介が多い。凧揚げと御殿屋台が見ものとのこと。これはラッキーと、夕方6時半からの屋台を見に行った。駅前の大きな通りはすごい人出だ。広い通りに町内ごとに屋台が10台近く並び、子供たちが、太鼓、鼓、横笛、三味線を奏で、お囃子をうたっている。それが、町内ごとに屋台、囃子、服装、楽器が異なり、頭の被り物も凝っている。屋台は大小の四輪で、法被姿の老若男女が綱を引く。目の前を数十台の屋台\*が通り過ぎ、広い通りを3台の山車が並走する時もあった。本当に賑やかで、壮観であり、楽しい時間を過ごした。\*80台ほどある。

ところが、屋台だけではない、“練(ね)り”がある。初めて見る私たちはビックリした。老若男女数十人が、大旗を先頭に、ラッパ、提灯、独特の歩調で文字通り練り歩き、時々円を描く。これは何かに似ていると思ったら、歩兵の行進である。連隊旗を先頭に進軍ラッパで進めの光景である。私の個人的感想だが、軍国主義の負の遺産、庶民の忘れがたい経験を上手に生かしている(昇華)と感じた。名物の餃子を食べてホテルに戻ると、“練り”が玄関やロビーをホテルの祭り協賛のお礼と練り歩き、最後に口上を述べ万歳三唱をしているのに出会った。また、ビックリ！

浜松まつりは多くの地元市民の方が楽しんでいることが、非常に良く伝わり、親近感を持った。浜松まつりが楽しみで、祭りを守りたいので浜松から離れない、“地元で頑張ろう”の気持ちを育んでいると思った。本当に子供も、大人も皆、楽しそうだった。

最後に、浜松餃子を食べた息子の感想。「横浜中華街の餃子のほうが美味しいよ・・・」。浜松の皆さん、ごめんなさい。



浜松まつり 御殿屋台

# 意見広告へのご協力、ありがとうございました。

静岡県下の9条の会と賛同団体の協力で、今年も新聞全面を使った意見広告に取り組みました。

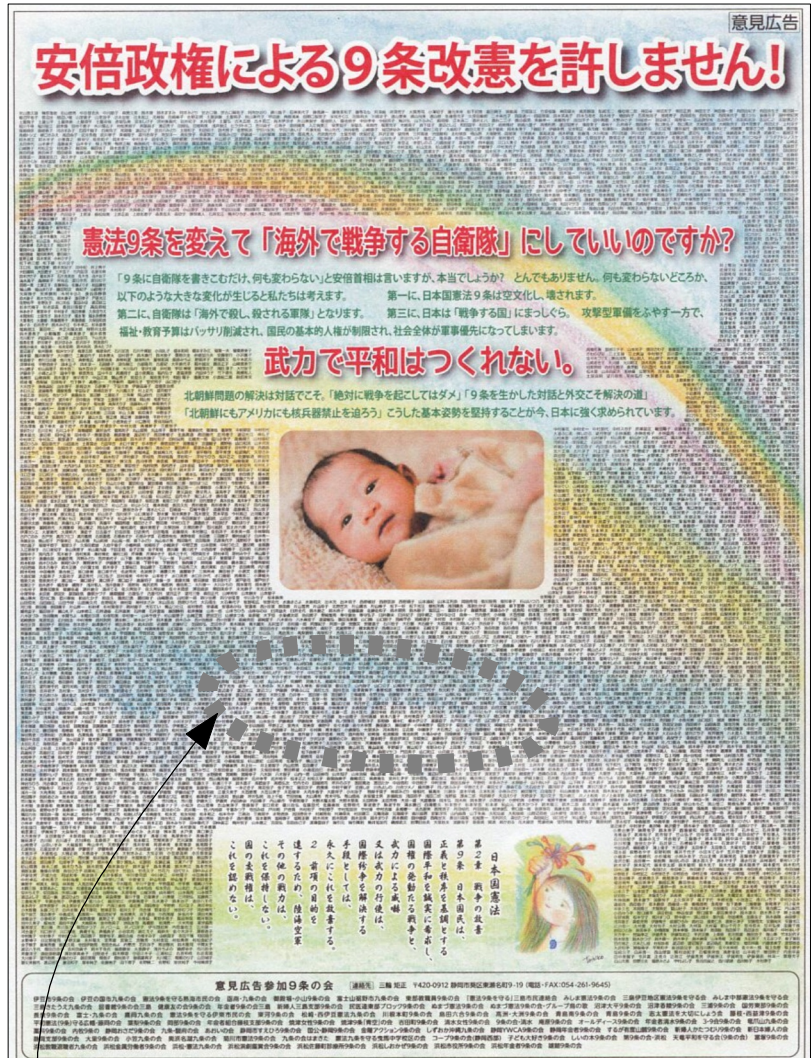
5月3日・憲法記念日に朝日新聞・朝刊・静岡県版に掲載されました。

2011年に始まった全県の意見広告は、今年8回目となりました。

大見出しは、「安倍政権による9条改憲を許しません!」。掲載者は全県で、昨年よりも341名増えて5160名でした。内訳は、

- 東部 2531名
- 中部 1533名
- 西部 1096名

竜爪山九条の会の掲載者は202名でした。参加団体は85団体でした。



竜爪山九条の会の賛同者名はこの破線で囲まれたあたりに載っています。

## 編集後記

8か月ぶりの会報をお届けします。今回は、望月衣塑子記者が講演の最後に引用された幣原喜重郎首相の言葉を紹介いたします。

「正気の沙汰とは何か。武装宣言が正気の沙汰か。それこそ狂気の沙汰だ」という結論は考え抜いた結果出ている。世界はいま一人の狂人を必要としている。自ら買って出て狂人とならない限り世界は軍拡競争の蟻地獄から抜け出すことはできない。これは素晴らしい狂人である。世界史の扉を開く狂人である。その歴史的使命を日本が果たすのだ」『日本国憲法』9条に込められた魂』鉄筆文庫より